

平成 20 年 6 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（B）海外学術研究
 研究期間：2007 ～ 2008
 課題番号：19402044
 研究課題名（和文）中国における教育改革（素質教育）の進展と現職教育に関する基礎的研究
 研究課題名（英文）A Basic research on the Development of Basic Education “Quality Education” and Teacher Training in China

研究代表者：島森哲男 (SHIMAMORI TETSUO)
 宮城教育大学・教育学部・教授
 研究者番号：70125699

研究成果の概要：

中国における 1993 年ごろから提唱された中国の「素質教育」の最近の展開について、2001 年から開始される義務教育改革と並行させて調査・研究を行ない、以下のことを明らかにした。

「義務教育改革は、中国の教育に質的な変化をもたらし、それは、①校長や教員における職業観の変化、②教師のカリキュラム認識における変化、③教師の教育観と学生観における変化を生じさせた。また、実践面では、①クラスでの教え方に置ける変化、②教師と生徒との関係における変化、③学生の学び方における変化をもたらした。また、「素質教育」自体は、職業教育、伝統教育、総合学習、情報教育、小学校英語学習といった今日的なニーズを取り込みながら、理念として昇華していった。」

交付額：

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2008 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
年度			
年度			
総計	5,500,000	1,650,000	7,150,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：(1)中国 (2)教育改革 (3)「素質教育」(4)現職教育(5)「研究性学習」
 (6)「総合学習」(7)「応試教育」

1. 研究開始当初の背景

「素質教育」は、1993 年頃から国家教育委員会によって提唱され、「21 世紀に向けた教育

振興行動計画」(教育改革と発展のための総合プロジェクト、教育部作成、1999 年 1 月國務院承認)では、その全面的推進が強調され

た。カリキュラム改革や現職教育の推進、さらには評価法の改革や高級中学（日本の高等学校に当たる）の入学試験改革などの政策措置も整えられつつある。提唱から 13 年有余を経過した「素質教育」は、政策的・理論的唱導の段階から、具体的な政策措置を伴った実行の段階へ、さらには各地域・学校での実践的試行の積み重ねという段階にいたっている。

本研究グループは、これまで 15 年間にわたって、直接現地に入り、初等・中等教育の実情把握を試み、成果をあげてきた。

本研究が目標としているのは、「素質教育」の関係文献の収集・分析、「素質教育」実践事例の収集・分析、現状での「研究性学習」（中国）と「総合的学習の時間」（日本）の実施状況、「継続教育」に関する文献収集と実施状況調査である。

2. 研究の目的

(1) 「素質教育」に関する政策的・理論的展開に関する文献と各地域・学校レベルの文献とを継続的に収集して分析することによって、「素質教育」の実際的展開を立体的にとらえる。

(2) 「素質教育」実践事例の収集・分析

文献の収集だけではなく、各地域・学校を視察してその実践例を数多く収集する。

(3) 「研究性学習」（中国）と「総合的学習の時間」（日本）との比較検討

中国の「素質教育」展開の象徴的事例としてこの「研究性学習」をとりあげ、日本の「総合的学習の時間」との比較研究、ごく最近での取組みの状況を調査する。

④ 「継続教育」に関する文献収集と実施状況調査

3. 研究の方法

学校現場における実践調査、文献調査、研究会による討論会の開催を行った。

(1) 実地調査

平成 19 年 21 日（金）～26 日（水）：東北師範大学附属幼稚園、東北師範附属中学校、黒竜江省ハルビン第三高等学校で実地調査。

平成 20 年 11 月 10 日（月）～17 日（月）：吉林省農安県小学校、公主嶺大榆樹中学校、遼寧省鞍山市教育委員会にて、実地調査。

(2) 文献調査

平成 20 年 12 月 24 日（水）～1 月 7 日（水）：北京図書館、香港中文大学図書館で文献調査。

(3) 研究交流・成果発表会

平成 19 年 9 月 21 日（金）東北師範大学
平成 19 年 12 月 3 日（月）宮城教育大学
平成 20 年 11 月 11 日（火）東北師範大学
平成 20 年 11 月 14 日（金）瀋陽師範大学
平成 21 年 2 月 17 日（火）宮城教育大学

4. 研究成果

(1) 中国の基礎教育改革の全体把握

東北師範大学における調査および基礎教育改革に直接携わった関係者からの聞き取りにより、2001 年に始まった基礎教育改革、および 2004 年から始まった高校段階でのカリキュラム改革について、その評価や問題点を含めて把握することが可能になった。

<中国基礎教育課程改革の実施過程>

中国基礎教育課程改革の実施は、義務教育段階と高校段階の 2 つの部分に分けられる。義務教育段階は 2001 年から実施され、2005 年には全面的に推行された。高校段階は 2004 年から実施され、現在のところ半分の省で新課程を使用している。国家は実施過程で一連の推進戦略を採用し、地方行政部門や学校も相応の協力戦略を打ち立てた。

①実施準備と移行（2000 年～2001 年）②国

家級実験区の始動と推進（2001年～2002年）
③省級実験区の始動と運用（2002年～2003年）
④大規模な推進（2003年～2005年）
＜普通高校課程改革の実施過程＞

教育部は2003年4月に《普通高校課程方案（実験）》と各学科課程基準を公布した。2004年に新課程を開始し実験区に入った。2004年から2007年までに、普通高校課程改革の実施は以下のいくつかの段階があった。①下準備・準備段階（2003～2004年）、②初期実験段階（2004～2005年）、③中期実験段階（2006～2007年）

このような基礎教育改革の成果として、①校長や教員における職業観の変化、②教師のカリキュラム認識における変化、③教師の教育観と学生観における変化が生じていること。また、実践面では、①クラスでの教え方に置ける変化②教師と生徒との関係における変化、③学生の学び方における変化が起きていることがわかった。

平成19年度9月、東北師範大学附属幼稚園、東北師範附属中学校、黒竜江省ハルビン第三高等学校での実地調査をおこなったところ、教員の職業観の変化、クラスでの教え方に置ける変化、教師と生徒との関係における変化、学生の学び方における変化について実際に了解することができた。

(2) 中国の素質教育の全体像把握

素質教育が政策に反映され始めたのは1993年2月からである。1996年頃から、政策の実践の段階に入る。2001年からは、基礎教育改革とリンクしながら議論されるようになる。

最近の教育計画の政策文書にも、素質教育は必ず言及されるが、伝統文化教育や情報教育の重視といった、政策的な課題や今日的な課題が素質教育のテーマとして、取り込まれ

ていった。

＜素質教育の問題点＞

平成20年11月に、吉林省農安県、公主嶺、遼寧省安山市での実地調査をおこなった。その結果、農村地域であっても教育のインフラが充実し、それが教育の質の向上に反映していること。素質教育が理念として了解されながら、すでにそれをテーマとする実践の段階ではなくなっていること。個別には職業教育や、情報教育、英語学習などが進んでいることを了解できた。その上で問題点としてあげられるのは、以下の事柄である。

①基礎教育の発展が依然として不均衡。素質教育を全体として推し進めることが難しい。地域間格差と、都市と農村の格差が著しく、教育資源の分配の不均衡で職業教育が効果的に職業選択に結びついていない。西部地域では依然として教育の発展が遅れている。

②一部の地域では、基礎教育のための経費が極端に足りず、基本的な教育状況が保障されていない。貧困地域で教育経費が足りず、校費で農村教師の給料が低い。このことが学校の運営を困難にしており、基本的な学校経営条件を保証していない。

③多年にわたって伝統が踏襲され、習慣化しており、新カリキュラム実施が急速なので、評価体系が硬直化しており、少なからぬ学校で素質教育が実質的に行われていない。

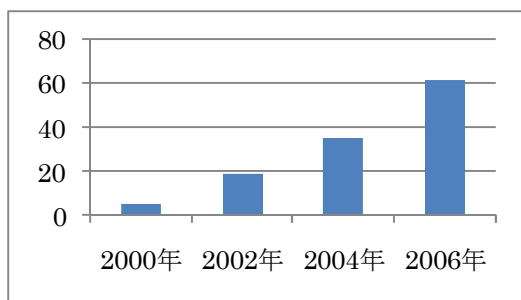
④当面の教師スタッフの素質、組織、数が素質教育の需要に応じ切れていない。

⑤補習クラスや家庭教育が教育改革の副産物となっている。保護者は理性的でない批判を繰り返し、学校は往々にして二枚舌的な対応を取らざるを得ない。表面的には素質教育、そして保護者に対しては応試教育を提唱する。

(3) 総合学習、情報教育、小学校英語教育の進展

教育部『基礎教育課程改革綱要（試行）』2001年第17号の規定によれば、総合学習は中国において「小学校から高校まで総合実践活動を設置し必修カリキュラムとする。おもな内容は、情報技術教育、研究性学習、ボランティア活動と社会実践および労働技術教育である。学生が実践を通して、探求し、意識の革新をはかること、科学研究の方法を学び、知識能力の総合的な運用能力を図り、学校と社会の密接な関係を促進し、生徒の社会的な責任感を養成する。カリキュラム実施のプロセスの中で、情報技術教育を強化し、生徒の情報技術利用の意識能力を養成する。必要な技術と職業の分業を理解し、初歩の技術能力を育成する。」と規定されている。

図：中国学校小学校英語教育全国開設比率



上述の研究結果から、「応試教育」からの脱却としての素質教育は、中国の発展にともなう教育インフラの整備、および、基礎教育改革と相まって、教育水準の向上をもたらし、質的には、教師の教え方や生徒の学び方の変化として表れていることがわかった。しかし、素質教育は、本質的には大学入試制度に収斂される問題であり、自己矛盾を抱えた上で教育改革が進行していく構造は、日本を含む他地域に共通する構造である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計6件)

①島森哲男「新学習指導要領與寛松教育的退

却」中日基礎教育改革報告会、東北師範大学、平成20年11月11日。

②市瀬智紀「校教育実践中的国際教育與外国語教育」中日基礎教育改革報告会、東北師範大学、平成20年11月11日。

③劉永兵「英語課程與教学改革：共同的研究取向世面對的不同問題」中日基礎教育改革報告会、東北師範大学、平成20年11月11日。

④馬雲鵬「中国基礎教育課程改革実施推進與展望」現代中国義務教育改革討論会、宮城教育大学、平成19年12月3日。

⑤李穎「『生命教育』的实践と探索」現代中国義務教育改革討論会、宮城教育大学、平成19年12月3日。

⑥董玉琦「中国普通高中信息技术課程設計與实施」現代中国義務教育改革討論会、宮城教育大学、平成19年12月3日。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

島森 哲男 (SHIMAMORI TETSUO)
宮城教育大学・教育学部・教授
研究者番号：70125699

(2) 研究分担者

佐藤 雅子 (SATO MASAKO)
宮城教育大学・教育学部・教授
研究者番号：60091774

吉田 剛 (YOSHIDA TSUYOSHI)
宮城教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：10431610

市瀬 智紀 (ICHINOSE TOMONORI)
宮城教育大学・附属国際理解教育研究センター・准教授
研究者番号：30282148